

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	医療情報学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18016	4	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	比較文化論 (Comparative Studies on Culture)				
担当教員名	森 雅文				
授業の概要及び到達目標					
「食」と「健康」に関わる文化の比較から、保健医療の文化・社会的側面について学習する。「文化」は、その社会で人々が当たり前に暮らすことを可能にする種々の知識や技術を含めた、人間の振る舞いと思考に関わる情報の総体である。「食」と「健康」に関わる諸社会の多様な実践を「文化」という視点から振り返ることで、各々のリアリティ（まさにそうだという感じ）がどのように創られているのかを捉え、自文化の「当たり前」を見つめ直すことを通して、他者に関わり続ける柔軟な実践を支えるための洞察力を養う。 また、予測される未来日本の課題を踏まえて、これからの社会を支える保健文化の可能性を考察する。現在の「食」と「健康」の常識の多くは、成長を目指した近代社会の形成とともに作られてきた。しかし、超高齢社会を迎える日本では、新しい考え方に基づいた「保健」のあり方が求められている。そのヒントを、比較文化の視点から探していく。					
準備学習等					
予習は、毎回の授業時に指示する。身近な経験を文化として振り返り、自らの「当たり前」や「偏見」を考え直す機会としたい。復習は、自らの理解不足を自覚して補う学生の営みと捉えて、講義内容の確認に努めてください。興味を持った内容や新たな疑問について発展的な学習に向かうこともあるでしょう。これらの過程での質問は遠慮なくしてください。					
成績評価の方法	授業の進捗に合わせたテスト：中間テスト（40％）・最終テスト（45％） 前半のテストに付随する課題（5％）、最終のレポート課題（10％） 授業時の質疑応答や任意の提出物（コメントペーパーや発展的学習の成果など）は、その内容評価により加算点として考慮する。				
テキスト	特定の教科書は使わない。 毎回の授業時にプリント資料を配付する。				
参考図書	授業時の配布プリントで適宜に紹介する。				
備考	授業は講義形式だが、質疑応答を交えてすすめる。 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連は、別途明示されている各学科の履修系統図を確認してください。				

授 業 計 画

第1回：文化としての「食」と「健康」 — 比較文化のまなざし —

食や健康を「文化」として捉える基本の考え方と、文化の比較において求められる異文化（他者）と自文化（自己）への妥当的なまなざしについて学ぶ。

第2回：穢れとしての「食べもの」 — 文化と秩序 —

「食」の文化には「きたなさ・穢れ」と結びつくものが数多い（これは「衛生」の問題ではない）。食べもの・調理・食事と文化的な秩序や儀礼との結びつきを学習する。

第3回：「贈りもの」の力 — 分ける文化と奪う文化 —

何かを贈ること・分け合うことは人間社会の特徴である。様々な贈答や分配の文化を捉えて、それが何を創り出すのかを学習する。

第4回：文化としての「主食」 — 「食」とイデオロギー —

「昔から日本人の主食は米」という偏った見識がある。特定の食物への依存や「主食」という考え方を文化として相対化して、「食」と権力の結びつきについて学習する。

第5回：予防の技法と「正しさ」 — 保健医療の文化性と制度性 —

古代の風水・仏教から現代の保健医療まで、社会防衛の技法がどのように正しさを得て、どのような世界観（人間や環境についての文化的な理解）を普及させたのかを比較する。

第6回：近代文化と「栄養」 — 滋養から栄養へ —

「栄養」は、近代国家を支える社会制度であった。「栄養」という文化の形成・普及を捉えて、「健康」の時代性と政治性について考察する。

第7回：菜食主義と「いのち」の思想 — 「健康」と社会思想 —

健康といのちの思想を結びつける「伝統」は数多い。食の多様化と情報の氾濫が進む現代における「伝統」への回帰を、その社会背景とともに考察する。

第8回：健康のパラダイム・シフト

人口減少と超高齢化を迎えた日本とその保健医療文化のあり方を捉えて、未来の日本を支える新たな食と健康の可能性を考える。

※ 授業回数分の計画として示しているが、授業の進捗によって予定は流動する。また、受講者の関心・要望に応じて予定の一部を変更する場合がある。